



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは。伊丸岡です。夏休みはいかがでしたか。休み明けの方が暑さ厳しい夏でしたね。学校祭を経ない夏休みって、なんとなく気の抜けたサイダーみたいでしたが…。

過去の厄災を忘れずに 9月1日防災の日

先日読み終えた本の、筆者による後書きにこんなことが書かれていました。

この春、長男が中学校を卒業した。この世代の子たちは、小学校入学前に3・11があり、親や友だちを亡くした子もいるし、保育園・幼稚園の卒園式ができなかった子もいる。今回は新型コロナの影響で中学の卒業式が縮小や延期となり、義務教育のはじめと最後の節目に未曾有の災害に見舞われたことになる。

なるほど、ことしの高校1年生はそういう学年だったのですね。

9年前の東日本大震災は本当に胸の痛む災害でした。巨大津波はいまだに信じがたい光景です。ボクの教え子もまだ行方不明ということになっています。被災地では、今年のコロナ禍のように、卒業式・入学式が行われなかった学校も多かった。神戸の震災も、高速道路が波打ち、ビルがペしゃんこの映像に目を疑いました。通電火災というものも、この震災の時の教訓です。その他にも多くの地震、水害などがありました。

思えば、ボクが就職した年の夏休みには、日航ジャンボ機墜落事件があり、夜通し一睡もせずにニュースを見ていた記憶があります。500人以上が一瞬にして命を落としました。JR福知山線の暴走脱線事故も、車両が折れ曲がりつぶれた光景は信じられないものでした。100名を超す犠牲者が出ました。このほかにも地上遙か高くなる鉄橋から強風にあおられて列車が転落した余部鉄橋事故、単線で正面衝突した信楽鉄道事故、東京の地下鉄が衝突した事故など数え切れないほどありました。バスも、大学生15名が死亡した軽井沢スキーバス事故があった。湾岸戦争が勃発したときには、休み時間に生徒が職員室のテレビを見せてくれと押し寄せました。アメリカの同時多発テロで、2棟の高層ビルに旅客機が突っ込んでビルが崩落する姿も信じがたいものでした。そのほかにも多くの大きな事故や災害、そして世界各地の戦争、紛争をみてきました。古平の豊浜トンネル崩落では、さっぽろ雪祭りに行く高校生を含む20名が圧死するという悲惨な事故でした。信じがたいと言えば、宗教団体による毒物大量殺人や、通り魔による無差別殺人、障害者施設的大量殺人に、大量バラバラ殺人、放火による大量殺人など、これまた予想だにしない厄災に巻き込まれて多くの人が命を落とした事件もずいぶんありました。



鴨長明もその一生の間に、大地震、大火事、大風、大飢饉など、多くの厄災を体験して『方丈記』に書き残しましたが、現代の我々も、一生の間にさまざまな事故や災害に遭遇することがあると思います。

いまはまた新型コロナウイルスという疫病問題が我々の身に降りかかっています。

戦後75年と言いますが、去年のことであろうが100年前であろうが、記憶しておかなければならないことであるのだろうと思います。厄災の教訓を現在の我々が活かし、次代につなげていく、そういうことが大事なんだろうと思います。風化させてしまえば、また同じ不幸を繰り返すことになりますから。

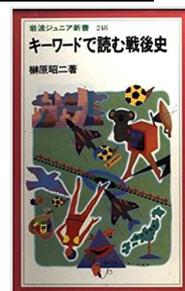
以下、みなさんの記憶にあるのは、21世紀になってからでしょうか？

1985 日航ジャンボ機墜落事故 死者520名	2001 大阪教育大付属池田小事件 8名
1986 余部鉄橋事故 7名	2001 米同時多発テロ 約3,000名
1990 湾岸戦争	2005 JR福知山線脱線事故 107名
1991 信楽高原鉄道事故 42名(負傷614)	2008 秋葉原通り魔事件 7名
1995 阪神淡路大震災 約6,500名	2011 東日本大震災 約20,000名
1995 古平町・豊浜トンネル崩落事故 20名	2016 津久井やまゆり園事件 19名
1995 地下鉄サリン事件 14名	2017 座間9人バラバラ殺人事件 9名
2000 地下鉄日比谷線脱線衝突事故 7名	2019 京都アニメーション放火事件 36名

キーワードで読む戦後史

岩波ジュニア新書#248『キーワードで読む戦後史』がお勧めです。

こしは「戦後75年」ということが盛んに言われましたね。この本は1994年の刊行ですから、戦後約50年の時点での「戦後史」であるわけですが、それでもみなさんにとっては知らない時代ですので、ぜひ読んでみてほしい。なかに、「平成」という項目があり、こんなくだりがあるって、へえ、と思わずにはいられませんでした。

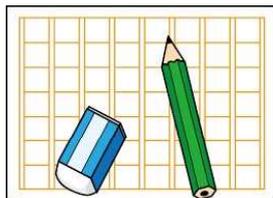


昭和64年1月7日午前6時33分、十二指腸腺がんのため昭和天皇は死去しました。・・・1月8日、新元号は「平成」となりました。・・・元号というのは中国の習慣にならったものですが、その中国にはもうありません。それと、いつも中国の古典からの引用です。元号を将来も継続するかどうか、存続するとしたら日本の古典たとえば万葉集からの引用にしてはどうか、というのは、21世紀のテーマでしょうか。

なんと、この著者の言うとおりに、昨年、万葉集からの引用で令和という元号が決められたということになっています。

この本にはほかにも「団塊の世代、ベビーブーム」とか、「朝鮮戦争」、「安保闘争」「インスタントラーメン」、「巨人・大鵬・卵焼き」、「スモッグ」、「三ちゃん農業」、「ミニスカート」・・・挙げれば切りがありませんが、戦後半世紀に亘る、世相を髣髴させるキーワードが満載です。ちょっとひと味違った現代史といった感です。

読書感想文を読んで



1年生の夏休み課題、読書感想文を読ませていただきました。毎年のことながら、夏休み明けの1週間ほどで校外コンクールへの応募作を絞り込まなければならない日程は、たいへんな苦行でもあります。

ボクが読んだ範囲では、こしの提出作の特徴は、「命」「(逆境や重病といった状況下で)生きる」「死」「虐待」「いじめ」「自殺」といったテーマのものが、比較的多かったように思いました。これはたいへん結構なことではないかと思うのです。本を読んで、生きるということについて考えを巡らせた、というのは夏休みの素晴らしい体験となったはずですよ。

文章表現では、やはり書き慣れていないせいか、稚拙なものが目立ちました。行頭に句読点などを打ったり、書名は二重カギカッコという約束を守らない初歩的なもの。書き言葉と話し言葉の区別がついていないもの。たとえば、文の途中における「・・・けど」「・・・てる」や、文頭の接続語としての「なので」「ですが」はかなり多い。話し言葉と書き言葉の違いというのは、服装で考えてみてご覧。部屋着、カジュアル着、正装といえ、はっきりと違うでしょう?それと同じです。

そして、一文が120字も150字にもなる長いものが散見されました。そうすると主語述語の呼応がねじれます。一文は50~60字を目安としましょう。これらは、3年生にもなれば心得ている人も多いはずですが、「書き言葉」「文章語」で書けないのは、やはりふだん、文章を読む量が少ないからに他なりません。また、きっちりした文章を書く経験が少ないからです。

読む、書く、考える。これから大学生、社会人になっていくにあたり、きちんとした文章を書ける、そうした下地をいま、作っていきましょう。

大震災、大津波を本で知る

9月1日は「防災の日」です。なぜこの日が防災の日かといえば、1923(大正12)年9月1日に関東大震災が起こったことに由来します。

関東大震災は、被災者190万、死者行方不明者10万人超という、東日本大震災以前のわが国において最大規模の被害を出した地震災害でした。昨今、南海トラフとか首都直下型地震発生のおそれがあります。遠い昔の出来事となりましたが、関東大震災に学ぶべきことも少なくないだろうと思います。

関東大震災は、「火事」による死者が多かった。江戸期以来の燃えやすい家屋が多かったこともあるが、火事の熱風がさらなる火事を呼ぶ。また、この震災により日本の建築基準も、耐火・耐震構造へと変わっていった。



『関東大震災』 吉村昭 文春文庫

『東京震災記』 田山花袋 河出文庫

『三陸海岸大津波』 吉村昭 文春文庫

ここに紹介した3冊の文庫本のうち上から2冊は、関東大震災を知るには手頃なものかと思えます。

3冊目は、岩手・宮城の太平洋側三陸海岸が明治以降、何度も大津波に見舞われた、その被災の実態を聞き歩いた

労作です。明治29(1896)年、昭和8(1933)年、昭和35(1960)年のチリ沖地震津波を中心として取材しています。明治29年の大地震と津波(死者26,000名超)の際には、安政3(1856)年の津波を記憶している古老もいたとか。また、昭和8年の大津波(死者約3,000名)の際には、明治29年の津波を記憶していた人もいたので、すぐさま高台へ避難行動を取った事例もあったとか。そうしてみると、この地域の人々は30~40年に一度は大津波を経験してきたことになります。三陸リアス式海岸は、津波は巨大化し、40~50メートルの高台にも到達したと言います。1~2世代ごとに経験してきた大災害に備えるべき言い伝えもあったようです。ただ、昭和35(1960)年のチリ地震による大津波は、日本近辺の地震ではなく、いわば地球の裏側で発生した地震による津波が遠く太平洋を横断して日本に伝わってきたもの。驚きますね。そして、江戸以来、三陸をおそった津波のうち、地震を伴わず、津波だけがおそった災害は皆、南米チリやペルーなどで起きた大地震による津波が23時間ほどを経て太平洋を渡って日本に到達したものと判明したそうです。

1ページにも書きましたが、過去の厄災を知ることは、いまの我が身を守る智慧になります。読んでみませんか？

新聞切り抜き読み

前向き駐車



ご近所の迷惑になりますので、必ず前向きに駐車して下さい。

▼「前向き駐車」 8/22 朝日新聞

8月22日朝日「be」の「街のB級言葉図鑑」という連載コラムがまたおもしろい。今回は「前向き駐車」。

個人病院や小規模駐車スペースなどでたまに見かける看板です。でも、これ、非常に悩ましいんですね。いったい、クルマの向きをどうするのが正解なのでしょう。「車の前面が見えるようにバックで入れる」のか、「前面を奥に向けて入れる」のか。「前進入庫」「前進駐車」、バックなら「後進」、これなら誤解が少ないのでは、と筆者は書いています。

「前向きに止めて下さい」という看板を見るたびに、後ろ向きな人生を送ってきたボクは戸惑うわけです。

▼「2世代半で振り出し論」 8/11 北海道新聞

8月11日、北海道新聞の「時代を見る」というコーナーに、ノンフィクション作家・吉岡忍氏が戦後75年の夏に寄せて、「2世代半で振り出しに」というタイトルの文を寄せています。これが非常に興味深いものでした。

氏はかねて「2世代半で世の中は振り出しにもどる」説を唱えてきたのだそう。「祖父母の世代が発奮して新時代を築こうと汗水流し、その息子・娘たちが事業を引き継いだとしても、孫の世代が一人前になる頃には振り出しに戻ってしまうという説」という。

その歴史的な実例として、大化の改新における班田収授から奈良の豪族や寺が荘園を広げていったのも、アメリカの独立から、奴隷制を巡って内輪もめを始めとうとう南北戦争を引き起こしたのも、大政奉還から殖産興業・富国強兵と盛りあがったものの、先の大戦に負けて国土が焦土と化したのも、いずれもおおよそ75年後、「2世代半」の時を経ているのだと言います。

「明治維新の孫の世代」が太平洋戦争の敗戦を喫し、戦後復興に努めた世代から、さらにその孫の世代になっている現代。「戦後」は遠い過去なのだろうか。

1923(大正12)年、関東大震災が起きました。そこから75年と言えば平成10年。もうその経験者もほとんどこの世になく、たしかに、遠い歴史上の出来事のように思われていました。ただ、ボクが大学生だった頃の老教授は関東大震災を経験しておられ、その時のようすを聞かせてくれました。思えば震災からまだ60年は経っていません。

すると、今年の「戦後75年」というのも、もう急速にリアルに語れる人が少なくなっていく時期であるということ。「戦後75年」は岐路に立っていると、吉岡氏は言っています。

みなさんが小学校入学直前(現高1)～小学校2年生(現高3)に経験した東日本大震災も、みなさんの孫が一人前になる頃には、はるか遠い昔話のようになってしまうのでしょう。

過去の大災害の教訓に学んだり、戦争という過去の過ちを再び繰り返さないためにも、そうした記録に触れる(記録を読む、本を読む)ことが大事だろうと思います。図書館には、そういう図書があります。

▼「水の東西」山崎正和氏死去 8/22 北海道新聞

2・3年生は習っているのだろうか、国語総合の教科書によく出てくる「水の東西」という評論を書いた、劇作家の山崎正和氏が19日に亡くなったという。86歳。生きていればボクの父親と同年だ。「水の東西」は長年教科書に載っていた教材。比較文化というジャンルの入口教材として、多くの高校生に読まれた文章です。

授業や講習で比較文化論の文章に出会うたび、なぜか比較の対象はいつでも欧米で、アジアやアフリカなどと比べて論じられることがない、ということを行います。トシのように、またもや「欧米か!」と突っ込みたくなるほど、比較文化、比較文明の対象はいつでも、日本対西洋だね。

読もう!新書

きょうは、「岩波ジュニア新書」のうち、**数学**に関するものを紹介しましょう。

「岩波ジュニア新書」は既刊約900点のうち、本校には460冊超を蔵書しています。そのうち、タイトルに「数学」がつくものをコンピュータで検索し、背表紙の目視で関連するものとおぼしきものをピックアップした結果、**19冊**ありました。左開き(横書き)で、数式や図形を示したものもあります。

以下、シリーズの番号順(書棚に並んでいる順)に列挙します。数学が好きな人も、苦手な人も、手に取ってみてはいかがでしょうか。

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| No. 39 『おーい!数学』 | 358 『数学の小事典』 |
| 54 『数を考える』 | 385 『なぜ数学を学ぶのか』 |
| 101 『数学はともだち』 | 417 『数学とっておきの12話』 |
| 113 『数学がおもしろくなる12話』 | 483 『パソコンで開く数の不思議世界』 |
| 123 『数学をパソコンでRUNしよう』 | 559 『数学、一歩先へ 証明と計算がおもしろい』 |
| 142 『たのしむ数学10話』 | 876 『数学と恋に落ちて 基本のおさらい篇』 |
| 159 『生きている数学12カ月』 | 877 『数学と恋に落ちて 文章題に挑む篇』 |
| 182 『数学公式に強くなる』 | 887 『数学と恋に落ちて 未知数に親しむ篇』 |
| 202 『数学公式徹底入門』 | 888 『数学と恋に落ちて 方程式を極める篇』 |
| 216 『数学なんてこわくない』 | |

岩波ジュニア新書は、カウンターから一番近い棚の、一番見やすい列に並べてあります。様々なジャンル、テーマのものがあります。自分の関心のあるテーマをチョイスして読むのもよし。在学中に全部読破!なんていう壮大な目標を立ててもいいかも。ぜひ読んでくださいね。



先日、家の玄関でなにやら視線を感じて「何だ?」と目をこらしてみると、それがなんと、娘が来て玄関に置いてあったスタバの紙袋。そこに例の人魚の顔が描かれており、その目がじっとボクを見つめていたのだ。これがボクのホラー話(法螺話?)。図書局の次なる企画のネタはなんてしょう?期待しています!

そろそろ第1期の新規購入図書が入ってきそうな気がします。貸し出しできるようになったらお知らせしますが、新たに購入希望図書がありましたらリクエストしてください。そうだ!図書館へ行こう! (文責 伊丸岡圭一)

